




東京2020オリンピック聖火リレー愛知県実行委員会が新たに選定した聖火ランナー

※敬称略、走行日時点の満年齢

走行日:2021年4月5日(月)

| | | | |
|---|-----------------------|------------|--------------|
|  | 石川 せり(いしかわ せり) | 15歳 | 稲沢市在住 |
| <p>2019年に行われたラグビーワールドカップで、日本代表の選手を見て、チームメイトのために最後まで諦めず、自分たちより大きな身体の外洋選手に立ち向かう姿、また、それをサポートするメンバー達が、ノーサイドの後お互いを称え合う姿にとっても感激しました。</p> <p>私が聖火ランナーとして稲沢を走ることができたら、ラグビー日本代表選手のように、稲沢市の代表として責任をもって参加し、仲間と協力することで、「ワンチーム」をつくってリレーを成功させたいです。</p> <p>私の生まれ育った稲沢市と、聖火採火式が開催されるオリンピア市は、姉妹都市です。オリンピア市から始まる聖火が、稲沢市にも届くこの機会に、両市にどのような関わりがあるのか学びたいと思っています。</p> <p>この聖火リレーが、東京2020オリンピックを盛り上げる最高のスタートとなるよう、頑張ります。</p> | | | |

| | | | |
|--|---------------------------|------------|--------------|
|  | 加藤 唐三郎(かとう とうざぶろう) | 72歳 | 瀬戸市在住 |
| <p>私は、千年余の歴史をもつ「やきもの」のまち瀬戸市で生まれ育ち、陶芸活動を通して、地域の伝統文化であるやきもの文化の振興に微力ながら尽くしてきました。</p> <p>瀬戸市の深川神社東隣の陶彦(すえひこ)社には、瀬戸の焼物の祖と言われる加藤四郎左衛門景正(通称藤四郎)が祀られており、瀬戸市のやきもの文化の象徴となっています。</p> <p>私の父は、藤四郎の系譜に連なる「第三十世唐三郎」であり、高校卒業後その父のもとで陶芸を学び、1991年には「第三十一世唐三郎」を襲名しました。</p> <p>私が東京2020オリンピックの聖火ランナーを務めさせていただくことで、今日まで支えてくださった方々への感謝の気持ちを伝えるとともに、瀬戸市の歴史あるやきもの文化の魅力を多くの人に知っていただきたいと思っています。</p> | | | |

| | | | |
|---|------------------------|------------|---------------|
|  | 水上 卓哉(みずかみ たくや) | 30歳 | 名古屋市在住 |
| <p>12歳の時の交通事故の後遺症は私の生活を一変させたが、私は自分の道をあきらめなかった。身体・言語・高次脳の障害と闘いながらonenessを制作テーマに200年後の子孫に美しい地球を残すため命の輝きを描く。2017年京都造形芸術大学大学院芸術研究科(通信教育)修了。修了制作展「研究室優秀賞」受賞。これまでに個展8回、シエル美術賞2016、2018入選、FACE2019入選、ル・サロン2019入選。第73回現展クサカバ賞。第75回現展「会員推挙」。活動を注目されるようになった。</p> <p>昨年担当した中日新聞「歌壇・俳壇」の挿画はたくさんのファンから好評をいただき、展覧会に来た方から“自分のリハビリにも希望が出て絵や俳句を書くようになり生活に喜びが生まれた”とお手紙をいただいた。必死に、そして淡々と制作活動を続けてきたことが、見ず知らずの方の希望となっていたことに私も嬉しくなり大きな力がわいてきたのを覚えている。</p> <p>私が発信することが一人でも多くの方の希望となるよう聖火ランナーに応募いたします。</p> | | | |

走行日:2021年4月6日(火)

名古屋市、豊田市、みよし市を中心とする愛知県をホームタウンとするサッカークラブ所属のOB選手及びアカデミー所属選手(グループランナー)のうち2人

| | | | |
|---|---|--|--|
|  | 神谷 悠介 (かみや ゆうすけ) 16歳 ＜アカデミー所属選手＞ |  | 黒野 崇人 (くろの たかと) 16歳 ＜アカデミー所属選手＞ |
|---|---|--|--|

※「自己PR・応募動機」は応募時の内容を記載しています。